

ニュースレター雪氷北信越

No.80 2001年8月10日
(社)日本雪氷学会北信越支部発行

<http://www.seppyo.org/~hse/>

目次

<案内>

- ・北信越支部のWeb ページ、移設・更新再開のお知らせ

<報告>

- ・第7回雪形ウォッチング
- ・新潟地区学習会「道路雪氷面の熱収支特性」～ 氷膜形成のメカニズムを考える ～

<その他>

- ・支部会員の消息
- ・8月、9月のカレンダー（北信越支部地域情報）

<案内>

[北信越支部のWeb ページ、移設・更新再開のお知らせ]

北信越支部のWeb ページを下記 URL に移設し、更新作業を再開しました。

<http://www.seppyo.org/~hse/>

ご要望、お気づきの点等ありましたら、

担当者（石川県林試 矢田 y-y@nsknnet.or.jp）までお知らせ下さい。

北信越支部 Web ページの移設・再開作業に関して、高知大学の菊池先生に大変お世話になりました。この場をお借りして、御礼申し上げます。

<報告>

第7回雪形ウォッチング

2001年6月2、3日の両日、第7回雪形ウォッチングが北アルプスの雪形を対象に、長野県松本市から白馬村にかけての山麓で開催された。参加者は過去最高の51名であった。この雪形ウォッチングは国際雪形研究会が主催し、北信越支部の見学会も兼ねて実施された。以下に、雪形ウォッチング初参加の倉元隆之さん（信州大学大学院工学系研究科）の報告を掲載させていただく。

（小林俊市幹事 記）

雪形ウォッチングに参加して

信州大学大学院工学系研究科 倉元隆之

6月2日、松本は好天に恵まれていた。その中、松本には全国から続々と雪形ウォッチャーが集まっていた。予習をかねて既に雪形を見てきた人、温泉巡りをしてきた人、長旅を楽しんできた人と様々ではあったが、これから始まる雪形ウォッチングを楽しみにしている様子は同じだった。夕食後に行われた雪形ミニシンポジウムでは、雪形に関する情報交換が夜遅くまで続けられた。

翌3日、早朝から雪形ウォッチングが行われた。ねむい目をこすりながらホテルの屋上へ向かうと、澄みわたった空の下に常念岳の万能嶽を見ることができた。

朝食後、バスに乗っての雪形ウォッチングが始まった。北アルプスの山々が見えると雪形ウォッチャーを乗せたバスには歓声が響いた。「蝶だ。」「鶏だ。」「爺さん、婆さんだ。」「代掻き馬だ。」などの声が聞こえ、気が付くと皆が子どものような表情をうかべながら雪形の現れた山々を眺めていた。豊科町、穂高町、大町市、白馬村と移動をしながら、絶好の雪形ウォッチングポイントにバスを止めては雪形を観察した。ベテランウォッチャーによる雪形の解説を耳にして雪形を確認し、写真におさめたり、スケッチをして楽しんだ。移動中の車内でも山の残雪を眺めては想像力を発揮し、ニュー雪形を探せと意気込んでいたが、なかなか難しいものだった。昼食後、田淵行男記念館に立ち寄り、雪形などの美しい写真を見学して今回の雪形ウォッチングは終了した。

第7回雪形ウォッチングは快晴に恵まれ、山に雲一つ掛かっていない状況で開催された。田に水が張られはじめた安曇野において、山肌に現れた雪形と季節の訪れを感じることもできたことは、何よりも嬉しいことであった。

< 報告 >

新潟地区学習会「道路雪氷面の熱収支特性」～ 氷膜形成のメカニズムを考える ～

講師：石川信敬 助教授（北大低温科学研究所）

日時：2001年7月4日(水) 17:00~18:00

場所：新潟大学 積雪地域災害研究センター3階

参加者：17名

講義はまず、新潟県でも冬によく見かけるような、他の道路より早く路面が露出している交差点、そして白い景色の中で黒く浮かび上がった駐車場の写真

から始まった。

「道路の一部が他より早く融けて路面が黒くなる現象が、交通量の多い道路の‘わだち’ばかりでなく、交差点や駐車場全体に起きるのはなぜだろう。」という石川先生の最初の疑問は、タイヤと路面の摩擦熱以外に車のボディーからの赤外放射が大きく効いているのではないかと、という仮説に発展した。そして、大胆な仮定を含みながらも、ある交通量の道路に車体を与える赤外放射量の最大値を数量的に計算し、また、ブレーキをかけたときの摩擦熱と比較して、それらが匹敵するものになりえることを示した。

これから社会の要請に応えて、路面状況の予測を試みる研究者に対しては、道路に車が走るという状況での乱流輸送量をどのように計算すべきか、また車が通る時に融解してまた凍結することを繰り返す現象をどのように表現したらよいか、摩擦の熱を熱収支式に取り込むためにはどのようにして Flux に変換すればよいかなどの、今後の課題が明確に示された。また、若手の研究者にとっては、新しい疑問や発想が仮説を経て、オーダー的な見積もり、そして実験などを繰り返してより正確な結果に近付いて行くプロセスを学び、研究の組み立て方を学ぶためのよい例が示された。

(新潟大学自然科学研究科 小倉康子 記)

<その他>

=支部会員消息=

[転出会員]

6月1日 河島 克久(鉄道総合技術研究所・塩沢雪害防止実験所)

関東以西支部へ(異動先:鉄道総合技術研究所・国立(くにたち)研究所)

一言『北信越支部の皆様

酷暑お見舞い申し上げます。塩沢雪害防止実験所を離れ、東京の本所に復帰してはや2ヶ月が経過しようとしています。こちらでの業務も塩沢のときと基本的には変わりないのですが、豊かな自然環境の下で仕事ができたありがたさをひしひしと感じています。塩沢には頻繁に行きますので、北信越支部の行事(お酒の会も含めて)にも参加させて頂きたいと考えています。今後とも、更なるご指導・ご支援を賜りますよう、塩沢実験所ともどもお願い申し上げます。

(財)鉄道総合技術研究所・防災技術研究部 河島 克久』

支部会員の消息欄を設けました。身近な会員の消息情報をお寄せ下さい。

= 8月、9月のカレンダー（北信越支部地域情報） =

7月20日（金）	第7回企画展『雪 SNOW』立山カルデラ博物館（〒930-1405 富山県中新川郡芦峯寺字ブナ坂 68 TEL:076-481-1160） （白い芸術家、白いダム、白い悪魔。雪の神秘的な世界を立山を舞台に紹介します。特に雪の壁の秘密や雪崩のすさまじさ等、詳しく取り上げます。入場無料（企画展のみの場合））
9月24日（月）	
8月4日（土）	『わくわく雪・氷観察塾』（午前10時 午後4時）と『10万個ピンポンなだれ体験（石打丸山シャンツェ）』（午後1時30分 午後4時）塩沢町公民館主催（TEL:0257-82-0100） （雪氷学会北信越支部共催）
8月10日（土）	『雪と氷の実験教室』長岡市立科学博物館（長岡市柳原町 2-1、柳原分庁舎内 TEL:0258-32-0546）（会場：長岡雪氷防災研究所） （雪の結晶やダイヤモンドダストを人工的につくる実験を行います。また、低温 室中で氷の実験をしたり、いろいろな氷の結晶を観察したりします。午後1時30分 4時30分） （長岡雪氷防災研究所、雪氷学会北信越支部共催）
8月18日（土）	『雪氷実験教室（諏訪裕子氏指導）』中谷宇吉郎雪の科学館（〒922-0411 石川県加賀市潮津町イ 106 TEL:0761-75-3323） （午後1時30分 午後 3時）
8月19日（日）	『第4回 科学工作ひろば』中谷宇吉郎雪の科学館（同上） （午前9時30分 午後4時、旭川西高の平松和彦氏も来館指導。）

『ニュースレター雪氷北信越』の配付は、郵送と電子メールで行っています。郵送料の節約のため、機関内一括配付や電子メールでの配付に協力いただいています。新たにご協力いただける方を求めます。しかし、支部会員のご都合・ご希望に合わせた配付も可能なかぎり行います。以下の配付方法に変更を希望される場合はお知らせ下さい。

- (1) 指定の住所への郵送に変更希望
- (2) 郵送の代わりに、指定のアドレスへ電子メールで配付希望
- (3) 指定の住所へ郵送し、かつ指定のアドレスへ電子メールで配付希望

配付方法の変更は、ニュースレター編集担当の竹井（i-takei@hokuriku-u.ac.jp または 〒920-1181 金沢市金川町ホ3 北陸大学 竹井 巖 TEL: 076-229-6233 / FAX: 076-229-2781）で受け付けています。

なお、次号は2001年10月10日発行予定です。掲載情報および原稿等は9月20日頃までに、お近くの編集委員または下記ニュースレター編集担当までお寄せください。

<p>日本雪氷学会北信越支部ニュースレター 編集担当：竹井 巖 〒920-1181 金沢市 金川町 ホ3 北陸大学 TEL: 076-229-6233 / FAX: 076-229-2781 / e-mail: i-takei@hokuriku-u.ac.jp</p>
--